

日本学校教育学会第31回研究大会

公開シンポジウムのテーマ設定趣旨

(日時：2016年8月6日(土) 14:00～17:00)

公開シンポジウムテーマ

学習指導要領の改訂とアクティブ・ラーニング

～学びをアクティブにするための特効薬・常備薬・漢方薬～

21世紀型能力や汎用的能力などの能力の育成には教え方や学び方の変容なくしては実現が困難なことから、新たな能力概念の抬頭は、授業の変容・質向上を求める動向として把握することができる。効果的な学びを実現する「変化とは、学校において、これまでと異なる内容を扱うことではなく、これまでとは異なる内容との交わり方をすることであり、違う方法で授業を行うことである。」(SINUS-Tより) この欧米で開発された学力向上プログラムが掲げる指導理念は、新たな能力育成には孤業(個業)としての学習からの転換、即ち、学習者各自の主体性を基盤にした協同的・探究的な学習の組織化が欠かせないことを基本に据えている。

かつて一部の大学教育に端を発し、それが学校教育現場へと波及し、次期学習指導要領の改訂論議でもクローズアップされているのが「アクティブ・ラーニング(AL)」である。

中央教育審議会教育課程企画特別部会がまとめた論点整理(2015年8月)では、ALの視点から、「習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程、…対話的な学びの過程、…主体的な学びの過程が実現できているかどうか」が問われている。ALの実態は千差万別であるが、それを自らの指導方法を見直し改善していく旗印と位置づけるとすれば、上記3つの「学びの過程」を実現するには、教師の指導過程や児童生徒の学習過程の何をアクティブにすることが効果的なのであろうか。また、どのような学習環境の構成が求められるのだろうか。例えば、①活動的・体験的な学習を特質とし、学力を押し上げる効果があるとのデータが公開された総合的な学習の時間は、この問いの有力なモデル足りうるのだろうか。②協同学習はグループ学習リバイバルといわれるほどのブームを引き起こしているが、それはALの特効薬なのだろうか。協同学習論者がグループ編成学習と敢えて区別する真意はどこにあるのか。③教授・学習の質向上がALの旗印だとすれば、それを成功に導く鍵はどこにあるのか。授業者は何に目を向けるべきなのか。学習環境の整備はどこまで有効なのか。

ALブームに左右されることなく、学習を真にアクティブにするための要(かなめ)は何か、AL(アクティブ・ラーニング)の課題と今後の展望に迫ることとする。

シンポジスト(五十音順)

田村 学(文部科学省初等中等教育局視学官)

早川三根夫(岐阜市教育長・第7期中央教育審議会委員)

水野正朗(名古屋市立桜台高等学校教諭、愛知文教大学講師)

司会・コーディネーター

原田信之(名古屋市立大学)

日本学校教育学会第 31 回研究大会

課題研究のテーマ設定趣旨

(日時：2016 年 8 月 7 日 (日) 13:15～15:45)

課題研究テーマ：

教育研究と教育実践の融合はどこまで進んだか - これからの教職大学院をどうとらえるか -

設定趣旨：

研究推進委員会では、教職大学院に求められる「理論と実践の融合」の現状と課題について、教育実践研究とは何かという根源的な問いや教職大学院における研究者の「当事者性」、歴代会長の振り返りという視点から多面的に検討し、問題提起をしてきた。

課題研究や公開研究会のテーマ設定趣旨でも述べてきたように、2006 年 7 月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」で提言された教職大学院は、実際の設置（2008 年度）から 10 年近く経過し、その内実が問われている。特に、「理論と実践の融合」に関わって、「当事者性」や「理論と実践の間の溝」の問題などを考えると融合に至るには課題が多い。その一方で、2012 年 8 月の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」において「高度専門職としての教員の育成システムを確立するうえでモデルを提供していることは疑いのないところである」としてその成果が認められ、今後もスクールリーダー養成のみならず、広く教員養成の核となっていくことが予想されている。改めて言うまでもないが、真に教職大学院が教員養成やリーダー養成の核になれるか否かは教職大学院の独自性の根拠とされる「理論と実践の融合」がどこまで進むかという問題と密接に関わっている。

本課題研究では、本年度から国立大学を中心に一気に設置が進む教職大学院をどうとらえたらいいのか、政策面、実践面両面からその可能性を探ることで今後の教員養成や教育学研究における「理論と実践の融合」のかたちを問いたいと考えている。

発表者：

「これから求められる教員の資質・能力と教職大学院の役割」

静岡県教育委員会義務教育課長 林 剛史

「教職大学院の現状と課題」

常葉大学教職大学院研究科長 安藤雅之

「教職大学院のカリキュラムを考える」

上越教育大学副学長 廣瀬裕一